

名詞を修飾する「小さい」「小さな」について

丹 保 健 一

On the Japanese Adjectives “tiisai” and “tiisana” which modify a noun.

kenichi TAMBO

キーワード：小さい、小さな、具象名詞、抽象名詞、形式名詞

はじめに

(1) 目的

名詞を修飾する「小さい」と「小さな」の違いを明らかにする。

(2) 用例採集資料

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（書籍データ）（以下、「BCCWJ 09_BK」と略称する。）を用いる。

1. これまでの研究（及び指摘）

名詞を修飾する「小さな」と「小さな」の相違に注目した研究は極めて少ない。辞書類の記述も参考にしたい。

「小さい」と「小さな」がどのように捉えられているかを、近年（2002年初版）刊行され、高い評価を得ている『明鏡国語辞典』の記述によって示しておく。

1-1. 『明鏡国語辞典』

『小さい』

① [視覚的に捉えて] 物体が空間を占める割合が少なく、面積・体積・寸法などが小である。② 音の量が少ない。③ 年齢が下である。④ [数量的に捉えて] 物事の規模や程度が少ないさま。小である。⑤ [数量を感覚的に捉えて] その程度・可能性・傾向などが取るに足りないさま。問題視するまでもないさま。⑥ [慣用句的に] 狭量で鷹揚なところがない。⑦ <「-くする」の形で> より小さな額の紙幣や硬貨にする。⑧ <「-くなる」の形で> 恐縮したり遠慮したりして、縮こまった姿勢になる。①～⑥ ⇒ 大きい 表現 「小さい／小さな」の用法の違いは、「大きい／大きな」にはほぼ平行的である。

『小さな』

「小さい」に同じ。

『大きい』

① [視覚的に捉えて] 物体が空間を占める量が多く、面積・体積・寸法などが大である。② 音の量が多い。③ 年が上である。④ [数量的に捉えて] 物事の規模や程度がはなはだしいさま。⑤ [数量を感覚的に捉えて] その程度・可能性・傾向などがはなはだしいさま。⑥ [人の態度・性行・発言などについて]

て、慣用句的に] ㉞度量や包容力がある。㉟大きさである。㊱分をわきまえずに偉そうにするさま。

【表現】（引用者注：「大きな」との比較に関する記述をまとめて示す。）

・被修飾語が具象名詞の場合は、自由に入れ替えがきく。・抽象度の高い名詞（「事件」「問題」）場合では、「大きな」が優勢。「小さい」「小さな」の場合もほぼこれに同じ。・慣用句的な「大きな態度[顔]をする」では、「大きな」が圧倒的に優勢。・「大きなお世話」のように、「大きい」で言い換えることができないものもある。・述語としても働く場合は、「大きい」が一般的。

『大きな』

「大きい」に同じ。

1-2. その他の指摘

- ① 「小さな」は「小さい」に比べると、対象に対する心理的な傾斜の感じられる語である。（飛田・浅田（1991））
- ② 「名詞」に係る場合、抽象名詞には「大きな」が普通であり、「大きい」は、具体的な事物に使うことが多い。（森田（1989）他）
- ③ 現代語では、体言にかかる「大きい」と「大きな」は共存しており、例えば、「大きい木／大きな木」においては、その意味差はほとんど感じられないが、抽象的な語にかかる用法では「大きな人間性」や「大きな愛情」などは、「大きい」にすると不自然になる。「大きい」が、物理的な大きさを主として表わすのに対して、「大きな」は、そこになにかしらプラスの感情的評価が介在するという点で、両者は共存していると思われる。（『日本国語大辞典』2002）
- ④ 「大きい顔」と「大きな顔」とでは、前者は事実としての広さ、大きさを表しているが、後者は「大きな顔をする」のように主観的・心理的な判断を表す傾向がある。「大きな希望がわいてくる」「大きな過ちを犯した」など、抽象的な事柄を表す名詞にかかる時は、「大きい」よりも「大きな」を使うことが多い。これも「大きな」の上記のような特徴による。（『大辞泉』2006）
- ⑤ 連体修飾する場合、「大きな」「小さな」の出現数が「大きい」「小さい」に比べ圧倒的に優勢である。
「大きな声」と「大きい声」は、使用率の違い（91%対9%）はあるものの用法に違いはない。（佐々木（2002））

1-3. これまでの成果と問題点

名詞を修飾する「小さい」「小さな」（参考「大きい」「大きな」）の違いについてのこれまでの研究・記述は次の①～④のようにまとめることができよう。

- ① 被修飾語が具象名詞では自由に入れ替えがきく。ただし、年齢を表す場合等では使い分けがある。
- ② 抽象的な名詞では「小さな」（「大きな」）が優勢。
- ③ 述語として働いている場合は、「小さい」（「大きい」）が一般的。
- ④ 「小さい」（「大きい」）は物理的な大きさを表し、「小さな」（「大きな」）は主観的・心理的な判断（感情的評価）が加わる傾向がある。

上記にまとめたこれまでの指摘には、首肯しがたいものが見られる。本稿では次の二つに絞って、実際に用いられている用例によって見ていくことにしたい。

- (1) 「小さな」（「大きな」）は抽象的な名詞に、「小さな」（「大きい」）は具象的な名詞に係るのが普通である。
- (2) 述語として働いている場合は、「小さい」（「大きい」）が一般的である。

2. 「小さい／な」に係る名詞の実態から

2-1. 名詞全般

表1は、「小さい／な」が直後に位置する名詞に係る場合の名詞一覧である。用例採集資料は、「BCCWJ09_BK」である。使用例が5以上の名詞を示した。順に「語形」:「総数」:「小さい+名詞」の数:「小さな+名詞」の数:「小さい」出現率を示している。(表2~4も同様)「小さい」の割合によって降順に示した。

表1. 「小さい／な」が修飾している名詞一覧 (出現数5以上)

場合:12:12:0:1.000	孔:8:2:6:0.250	部分:6:1:5:0.167
順:5:5:0:1.000	事務所:8:2:6:0.250	薬:6:1:5:0.167
とき:78:77:1:0.987	点:8:2:6:0.250	山:13:2:11:0.154
時:27:26:1:0.963	男の子:13:3:10:0.231	炎:7:1:6:0.143
ほう:19:18:1:0.947	顔:18:4:14:0.222	写真:7:1:6:0.143
ころ:60:55:5:0.917	アパート:9:2:7:0.222	墓:7:1:6:0.143
頃:107:96:11:0.897	地震:9:2:7:0.222	紙:8:1:7:0.125
方:11:9:2:0.818	娘:9:2:7:0.222	文字:8:1:7:0.125
やつ:7:5:2:0.714	国:24:5:19:0.208	祠:8:1:7:0.125
者:6:4:2:0.667	女の子:30:6:24:0.200	店:33:4:29:0.121
子:28:18:10:0.643	音:15:3:12:0.200	声:156:18:138:0.115
人間:5:3:2:0.600	湖:10:2:8:0.200	グループ:9:1:8:0.111
ところ:14:8:6:0.571	スペース:5:1:4:0.200	建物:9:1:8:0.111
サイズ:7:4:3:0.571	一步:5:1:4:0.200	字:9:1:8:0.111
単位:7:4:3:0.571	活字:5:1:4:0.200	食堂:9:1:8:0.111
容器:7:4:3:0.571	眼:5:1:4:0.200	流れ:9:1:8:0.111
人:11:6:5:0.545	神社:5:1:4:0.200	部屋:29:3:26:0.103
商店:6:3:3:0.500	星:5:1:4:0.200	村:30:3:27:0.100
もの:111:53:58:0.477	赤ちゃん:5:1:4:0.200	グラス:10:1:9:0.100
男:7:3:4:0.429	島々:5:1:4:0.200	街:10:1:9:0.100
企業:5:2:3:0.400	破片:5:1:4:0.200	光:10:1:9:0.100
集団:5:2:3:0.400	半島:5:1:4:0.200	滝:10:1:9:0.100
こと:84:32:52:0.381	口:12:2:10:0.167	鳥:10:1:9:0.100
動物:12:4:8:0.333	頭:12:2:10:0.167	箱:10:1:9:0.100
袋:6:2:4:0.333	ドア:6:1:5:0.167	目:10:1:9:0.100
子供:59:18:41:0.305	ホテル:6:1:5:0.167	島:31:3:28:0.097
駅:10:3:7:0.300	共同体:6:1:5:0.167	体:23:2:21:0.087
会社:34:10:24:0.294	手帳:6:1:5:0.167	魚:12:1:11:0.083
子ども:36:10:26:0.278	傷:6:1:5:0.167	庭:12:1:11:0.083
子どもたち:11:3:8:0.273	森:6:1:5:0.167	手:39:3:36:0.077
物:11:3:8:0.273	悲鳴:6:1:5:0.167	マンション:13:1:12:0.077
船:12:3:9:0.250	病院:6:1:5:0.167	記事:13:1:12:0.077

川：15：1：14：0.067	漁村：9：0：9：0.000	島国：6：0：6：0.000
虫：16：1：15：0.063	商店街：9：0：9：0.000	突起：6：0：6：0.000
政府：17：1：16：0.059	世界：9：0：9：0.000	目標：6：0：6：0.000
テーブル：20：1：19：0.050	石：9：0：9：0.000	キッチン：5：0：5：0.000
家：45：2：43：0.044	カメラ：8：0：8：0.000	ランプ：5：0：5：0.000
花：26：1：25：0.038	喫茶店：8：0：8：0.000	レストラン：5：0：5：0.000
町：81：2：79：0.025	胸：8：0：8：0.000	影：5：0：5：0.000
穴：39：0：39：0.000	空間：8：0：8：0.000	火：5：0：5：0.000
池：18：0：18：0.000	成功：8：0：8：0.000	丸テーブル：5：0：5：0.000
公園：15：0：15：0.000	生き物：8：0：8：0.000	岩：5：0：5：0.000
窓：15：0：15：0.000	バッグ：7：0：7：0.000	教会：5：0：5：0.000
橋：12：0：12：0.000	車：7：0：7：0.000	携帯電話：5：0：5：0.000
組織：12：0：12：0.000	小屋：7：0：7：0.000	工場：5：0：5：0.000
変化：12：0：12：0.000	土地：7：0：7：0.000	姿：5：0：5：0.000
木：11：0：11：0.000	盆地：7：0：7：0.000	唇：5：0：5：0.000
ため息：10：0：10：0.000	塊：6：0：6：0.000	乳首：5：0：5：0.000
集落：10：0：10：0.000	寺：6：0：6：0.000	博物館：5：0：5：0.000
親切：10：0：10：0.000	身体：6：0：6：0.000	板：5：0：5：0.000
畑：10：0：10：0.000	人物：6：0：6：0.000	包み：5：0：5：0.000
ビル：9：0：9：0.000	赤ん坊：6：0：6：0.000	門：5：0：5：0.000
看板：9：0：9：0.000	町工場：6：0：6：0.000	老婆たち：5：0：5：0.000
計：2354：633：1721：0.269〈平均〉		

表1から、次のことが指摘できる。

- ① 「小さい」＋「名詞」の占める割合は少ない。0.269 (26.9%)
- ② しかし、平均して少ないのではなく、その割合が80%を超える名詞もある。
「場合」：100%、「順」：100%、「とき」：98.7%、「時」：96.3%、「ほう」：94.7%、「ころ」：91.8%、「頃」：89.7%、「方」：81.8% (70%台では、「やつ」：71.4%がある。)
- ③ 「小さい」の割合の高い名詞は、そのほとんどがいわゆる形式名詞と呼ばれるものである。
「場合」：100%、「とき」：98.7%、「時」：96.3%、「ほう」：94.7%、「ころ」：91.8%、「頃」：89.7%、「方」：81.8% (参考：「ところ」：57%、「もの」：48%、「こと」：38%)
- ④ 形式名詞でないと思われる名詞にも、「小さい」の割合の高いものが見られる。
「順」：1 (100%)、「サイズ」：0.571 (57.1%)、「単位」：0.571 (57.1%)

2-2. 形式名詞について

形式名詞の定義は研究者によって大きく異なるが、本稿では、形式名詞をとりあえず次のように定めておきたい。

形式名詞とは、元の意味が薄れて補助的・形式的に使われる名詞である。同じ語形で実質名詞として用いられることもあるが本稿では形式名詞と称する。

このような分類基準によって、形式名詞を仮に分類し、それらの「小さい」「小さな」の出現数についてまとめたのが次の表2である。

表2. 「小さい／な」が修飾している形式名詞一覧（出現数5以上）

場合：12：12：0：1.00	頃：107：96：11：0.90	もの：111：53：58：0.48
とき：78：77：1：0.99	方：11：9：2：0.82	こと：84：32：52：0.38
時：27：26：1：0.96	やつ：7：5：2：0.71	物：11：3：8：0.27
ほう：19：18：1：0.95	者：6：4：2：0.67	点：8：2：6：0.25
ころ：60：55：5：0.92	ところ：14：8：6：0.57	
計：555：400：155：0.721 〈平均〉		

表2によって、次のことを指摘することができる。

- ① 「小さい／な」+形式名詞において、「小さい」が占める割合は、72%を示し、名詞全体における割合26.9%に比べ、圧倒的に高い。
- ② しかし、語によってばらつきがあり、高いものは90%を超えるのに対し、低いものは30%以下のものも見られる。

「場合」：100%、「とき」：99%、「時」96%、「ほう」：95%、「ころ」：92%、「頃」：90%
「物」：27%、「点」：25%

このようなバラツキの理由の一つとして、「物」「点」は実質名詞として用いられていることが多い（あるいは総て？）と推測がされるが、それについては用例の一つ一つについて検討する必要がある。後に触れる。

2-3. 具象名詞について

次に示したのは、具象名詞を抜き出し、まとめたものである。具象名詞と抽象名詞の考え方は、研究者によって異なると思われるが、本稿では次のように考えておきたい。

具象名詞とは、目視でき（あるいは目視できると考えられ）、かつ、広がり（二次元又は三次元）を持つ（あるいは広がりを持つと考えられる）対象を示している名詞。

このように定義付けると、「光」「影」「穴」「スペース」等の扱いが問題となる。本稿では、「光」「影」「穴」「スペース」を具象名詞に分類する。目視できない「声」「音」「悲鳴」は抽象名詞に入ることになる。あくまで仮りの分類基準である。具象度（抽象度）と「小さい／な」による修飾率との関係については後に触れる。

表3. 「小さい／な」が修飾している具象名詞一覧（出現数5以上）

子：28：18：10：0.64	会社：34：10：24：0.29	活字：5：1：4：0.20
人間：5：3：2：0.60	子ども：36：10：26：0.28	眼：5：1：4：0.20
容器：7：4：3：0.57	子どもたち：11：3：8：0.27	湖：10：2：8：0.20
人：11：6：5：0.55	孔：8：2：6：0.25	女の子：30：6：24：0.20
商店：6：3：3：0.50	事務所：8：2：6：0.25	神社：5：1：4：0.20
男：7：3：4：0.43	船：12：3：9：0.25	星：5：1：4：0.20
袋：6：2：4：0.33	男の子：13：3：10：0.23	赤ちゃん：5：1：4：0.20
動物：12：4：8：0.33	アパート：9：2：7：0.22	島々：5：1：4：0.20
子供たち：13：4：9：0.31	顔：18：4：14：0.22	破片：5：1：4：0.20
子供：46：14：32：0.30	娘：9：2：7：0.22	半島：5：1：4：0.20
駅：10：3：7：0.30	スペース：5：1：4：0.20	ドア：6：1：5：0.17

ホテル：6：1：5：0.17	体：23：2：21：0.09	穴：39：0：39：0.00
口：12：2：10：0.17	魚：12：1：11：0.08	公園：15：0：15：0.00
手帳：6：1：5：0.17	庭：12：1：11：0.08	工場：5：0：5：0.00
傷：6：1：5：0.17	マンション：13：1：12：0.08	姿：5：0：5：0.00
森：6：1：5：0.17	手：39：3：36：0.08	寺：6：0：6：0.00
頭：12：2：10：0.17	川：15：1：14：0.07	車：7：0：7：0.00
病院：6：1：5：0.17	虫：16：1：15：0.06	集落：10：0：10：0.00
薬：6：1：5：0.17	テーブル：20：1：19：0.05	商店街：9：0：9：0.00
山：13：2：11：0.15	家：45：2：43：0.04	小屋：7：0：7：0.00
炎：7：1：6：0.14	花：26：1：25：0.04	唇：5：0：5：0.00
写真：7：1：6：0.14	町：81：2：79：0.02	身体：6：0：6：0.00
墓：7：1：6：0.14	カメラ：8：0：8：0.00	人物：6：0：6：0.00
紙：8：1：7：0.13	キッチン：5：0：5：0.00	生き物：8：0：8：0.00
文字：8：1：7：0.13	バッグ：7：0：7：0.00	石：9：0：9：0.00
祠：8：1：7：0.13	ビル：9：0：9：0.00	赤ん坊：6：0：6：0.00
店：33：4：29：0.12	ランプ：5：0：5：0.00	窓：15：0：15：0.00
建物：9：1：8：0.11	レストラン：5：0：5：0.00	池：18：0：18：0.00
字：9：1：8：0.11	影：5：0：5：0.00	町工場：6：0：6：0.00
食堂：9：1：8：0.11	火：5：0：5：0.00	土地：7：0：7：0.00
流れ：9：1：8：0.11	塊：6：0：6：0.00	突起：6：0：6：0.00
部屋：29：3：26：0.10	看板：9：0：9：0.00	乳首：5：0：5：0.00
グラス：10：1：9：0.10	丸テーブル：5：0：5：0.00	博物館：5：0：5：0.00
街：10：1：9：0.10	岩：5：0：5：0.00	畑：10：0：10：0.00
光：10：1：9：0.10	喫茶店：8：0：8：0.00	板：5：0：5：0.00
村：30：3：27：0.10	漁村：9：0：9：0.00	包み：5：0：5：0.00
滝：10：1：9：0.10	教会：5：0：5：0.00	盆地：7：0：7：0.00
鳥：10：1：9：0.10	橋：12：0：12：0.00	木：11：0：11：0.00
箱：10：1：9：0.10	胸：8：0：8：0.00	門：5：0：5：0.00
目：10：1：9：0.10	空間：8：0：8：0.00	老婆たち：5：0：5：0.00
島：31：3：28：0.10	携帯電話：5：0：5：0.00	
計：1431：181：1250：0.126〈平均〉		

表3によって、次の事が指摘できる。

- ① 具象名詞に見られる「小さい」の割合は平均すると12.6%である。「小さな」が圧倒的優位を占めている。
- ② しかし、「小さい」の割合が50%を超える名詞も見られる。
「子」：0.64、「人間」：0.60、「容器」：0.57、「人」：0.55、「商店」：0.50、「男」：0.43、「袋」：0.33、「動物」：0.33、「子供たち」：0.31、「子供」：0.30
これらの語は、語義に共通するものも見られる。このことについては後に触れる。

2-4. 抽象名詞について

抽象名詞は、先に示した形式名詞を除いた実質名詞の内、具象名詞でないものとした。抽象名詞の範囲が広いため、当面は、指示詞、代名詞、数詞（数名詞、数量詞、時数詞）等、かなり性格の異なるものも含まれることになる。

表4. 「小さい／な」が修飾している抽象名詞一覧（出現数5以上）

順：5：5：0：1.00	共同体：6：1：5：0.17	親切：10：0：10：0.00
サイズ：7：4：3：0.57	悲鳴：6：1：5：0.17	世界：9：0：9：0.00
単位：7：4：3：0.57	部分：6：1：5：0.17	成功：8：0：8：0.00
企業：5：2：3：0.40	声：156：18：138：0.12	組織：12：0：12：0.00
集団：5：2：3：0.40	グループ：9：1：8：0.11	島国：6：0：6：0.00
地震：9：2：7：0.22	記事：13：1：12：0.08	変化：12：0：12：0.00
国：24：5：19：0.21	政府：17：1：16：0.06	目標：6：0：6：0.00
一歩：5：1：4：0.20	ため息：10：0：10：0.00	
音：15：3：12：0.20	空間：8：0：8：0.00	
計：376：52：324：0.160 〈平均〉		

表4を見て、まず気づくことは、抽象名詞であるにも関わらず、「小さい」の占める割合が16.0%もあり、具象名詞の12.6%より高いことになる。しかし、雑多な集合である抽象名詞から、表4において上位を占め、特殊な語義を持つと思われる「順」「サイズ」「単位」を除くと、その割合は、0.123（12.3%）となる。

ここでは、表4によって次のことを指摘しておく。

- ① 「小さい」の占める割合は16.0%であり、「小さな」が優位を占めている。
- ② 特殊な語義特性を持つと思われる「順」「サイズ」「単位」を除くと、0.123（12.3%）となり、具象名詞の12.6%とほとんど変わらない。
- ③ 典型的な抽象名詞であると考えられる「親切」「成功」「組織」「変化」「目標」においては、「小さい」の占める割合は0%、つまり、「小さな」が100%を占めている。

典型的な抽象名詞（抽象度の高い名詞）、並びに「順」「サイズ」「単位」の特殊性については後に触れる。

3. 名詞の特性と「大きい／な」の出現率

3-1. 形式名詞

「小さい／な」の形式名詞修飾において、「小さい」の割合が高いもの（90%以上）と低いもの（30%以下）は、次のような語である。

「場合」：100%、「とき」：99%、「時」：96%、「ほう」：95%、「ころ」：92%、「頃」：90%

「物」：27%、「点」：25%

バラツキに影響を与えている要因はいくつか考えられるが、ここでは次の3点に絞って見ておくことにした。

- ① 連体修飾節用法の割合
- ② 「小さい／な」が年齢を表す割合

③ 実質名詞の割合

上に示した3点の外、内／外の関係、限定／非限定用法、上位／下位概念、指示性といった観点からの検討も興味深い、別の機会に譲ることにしたい。

- (1) 「場合」(100%) 12:12:0 ((小さいの割合)、総数、「小さい」の数、「小さな」の数)

連体修飾節: 12 (100%)、年齢: 0 (0%)

- (2) 「とき」(99%) 78:77:1

連体修飾節: 78 (100%)、年齢: 73 (94%)

主語が明記されていないものが多いが、主語を書き手又は話し手であると推定できる例が多い。

- (3) 「時」(96%) 27:26:1

連体修飾節: 27 (100%)、年齢: 25 (93%)

- (4) 「ほう」(95%) 19:18:1

連体修飾節: 19 (100%)、年齢: 1?

主体が明示されていない例も多いが、「小さい」の主体が前提となっており、総て連体修飾用法とした。

- (5) 「ころ」(92%) 61:56:5

実質的意味: 0、連体修飾節: 61 (100%)、年齢: 61 (100%)

- (6) 「頃」(90%) 107:96:11

連体修飾節: 107 (100%)、年齢: 107 (100%)

- (7) 「方」(82%) 11:9:2

連体修飾節: 11 (100%)、年齢: 0 (0%)

主体が明示されていない例も多いが、「小さい」の主体が前提となっており、総て連体修飾用法とした。

- (8) 「やつ」(71%) 7:5:2

連体修飾節: 0 (0%)、年齢: 0 (0%)

「やつ」を形式名詞とすることについては意見の別れるところであろう。一般的には、人を軽蔑を込めて言う時や、親しみを込めて言う時に用い、また、物をさしてぞんざいに言う時にも用いられ、代名詞としての用法もある語である。とされている。

「やつ」の性格として指示性を指摘しておきたい。〈小さい〉の本体は、「やつ」が指示する指示物であることに注目する必要がある。このように考えると、修飾被修飾関係が、間接的であり、これまで見てきた形式名詞との間に相通ずる特徴を見ることができる。

- (9) 「者」(67%) 6:4:2

連体修飾節: 2 (33%)、年齢: 2 (33%)

- (10) 「ところ」(57%) 17:8:6

連体修飾節: 4 (24%)、年齢: 0 (0%)

- (11) 「もの」(48%) 111:53:58

連体修飾節 13 (12%)、年齢: 0 (0%)

- (12) 「こと」(38%) 84:32:52

連体修飾節: 17 (21%)、年齢: 0 (0%)

- (13) 「物」(27%) 11:3:8

連体修飾節: 0 (0%)、年齢: 0 (0%)

総て「物体・物質」と言い換えることができ、総て物体・物質を表すと考えられる例であった。物体・物質を表す場合は「物」を、形式名詞の場合は「もの」を用い、表記による使い分けをしているように思われる。具象名詞に分類すべきであろう。

(14)「点」(25%) 8:2:6

連体修飾節 1 (9%) ?、年齢:0 (0%)

総て実質的な意味として用いられていると解釈できる例である。具象名詞に分類すべきであろう。なお、「小さい／な」+「てん」の用例は、BCCWJ 09 Bk には見られなかった。

「物」「点」を除くと、「小さい／な」が修飾する形式名詞の「小さい」の割合は、73.7%となり、若干高くなる。具象名詞における「小さい」の割合は、12.6%が12.8%となり若干高くなる。

以上の14語を見ることによって、「小さい」の使用率が高い名詞として、(1)「物」や「点」のように、実質的な意味としてのみ用いられ、具象名詞に分類した方がよいこと。(2)「やつ」は代名詞とでも称すべき名詞であること。(3)「とき」「時」「ころ」「頃」は、年齢を表す用法の割合が極めて高いこと。(4)「場合」「ほう」「方」「やつ」(?)は、選択的指示性とでも称すべき語義を有すること。(5)「こと」「もの」「ところ」は、最も広い上位概念を表すこと。(6)連体修飾節率の高いものは、「小さい」の率が高いという傾向は見られるが、逆は真ではないこと。などを指摘した。ここで取り上げた以外の要因もあるように思われるが、詳細な検討は別の機会に譲りたい。

3-2. 具象名詞

先に、具象名詞であってもバラツキがあり、「小さい」の割合が平均よりかなり高い名詞が見られることを指摘した。

「子」:0.64、「人間」:0.60、「容器」:0.57、「人」:0.55、「商店」:0.50、「男」:0.43、「袋」:0.33、「動物」:0.33、「子供」:0.31

これらの名詞を見ると、「子」「子供」のように共通する語義的特徴が見られる。ちなみに、〈子供〉に関する語形は、先に示した「子」:0.64、「子供たち」:0.31「子供」:0.30の外、「子ども」:0.28、「子どもたち」:0.27、「男の子」:0.23、「女の子」:0.20であり、抽象名詞の平均0.126に比べ総て高い割合を示している。

〈子供〉を表す語に係る場合、「小さい／な」は、体格の小ささより、年齢の小ささを表すことが多い。実際、「子」「子供」「子供たち」「子ども」「子どもたち」「男の子」「女の子」に「小さい／な」に係る例においては、総て年齢の低さを表していると解釈することが可能であった。(両者に解釈される例も見られる。また、「子」や「子供」「子ども」に比べると、「女の子」や「男の子」の方が、体の小ささを表す事が多いようである。)

総じて子供を表す語に係る場合、年齢を表す場合には「小さい」を用いやすいため、「小さい」の割合が具象名詞全体の平均より高くなっているということができる。

この他、平均(0.126)より遙かに高い数値を示しているものに「人」:0.55、「人間」:0.60、「男」:0.43がある。見ておこう。

(1)「人」小さい-6、小さな-4

連体修飾節用法4例(60%)、その他6例、6例の内3例は年齢の低いことを表しているとも解釈できるものである。

(2)「人間」:小さい-3、小さな-2

連体修飾節用法は1例であるが用例数が少ないため影響は大きい。この外、「小さい人間」の意味として、「取るに足らない」といってニュアンスを持つことも影響しているように思われる。

(3)「男」:小さい-3、小さな-4

連体修飾節用法が2例?、その他3例?であるが、連体修飾節の割合は大きい。また、その他3例の内1例が「物足らない」といった意味の「小さい」であった。「小さい」が男に係る割合の高さはこ

の二つが影響しているように思われる。

これら「人」「人間」「男」に共通して言えることは、修飾句・節が求められることが多いこと、そして、「取るに足らない」といった性格を表現する場合には「小さな」ではなく「小さい」を用いることが多いことの二つが「小さい」の割合を高くしている要因と考えることができよう。

3-3. 抽象名詞

抽象名詞の中で、「小さい」の割合が高いもの（上位3語）に、「順」：100%、「サイズ」：57%「単位」：57%がある。平均が16.0%（この3語を除くと12.3%）であるため、際立っている。

これらの名詞は、物や事象を表しているわけではなく、物あるいは事象を何らかの視点によって比較する「比較視点、比較基準値」とでも言える名詞である。その名詞が示す「順」「サイズ」「単位」そのものが<大きさ>を有しているわけではないことに留意したい。このことが「小さい」の出現率に影響を与えているように思われる。このように考えると、特殊な性格を持つ語彙グループ（数量的単位）と考えた方がよいと思われる。

例：キーボードの数字を《小さい》順に押せば正解で、

例：時代の古い民画はこんな《小さい》サイズでも、力は互角です。

例：日本にはそんなに《小さい》単位しかないのかと笑われて、

3-4. 「抽象度・具象度」と「小さい／な」の割合をめぐって

表4. の「小さい／な」が修飾する抽象名詞の一覧を見ると、その上位と下位に位置する名詞には、一定の語義的傾向が見られるように思われる。上位の語としては、次のような語がある。（「順」、「サイズ」、「単位」は除く。）

企業：0.40、集団：0.40、地震：0.22、国：0.21、一步：0.20、音：0.20、共同体：0.17、
悲鳴：0.17、部分：0.17、声：0.12

下位の語としては、次のような語がある。

政府：0.06、ため息：0.00、空間：0.00、親切：0.00、世界：0.00、成功：0.00、組織：0.00、
島国：0.00、変化：0.00、目標：0.00

これらの語を見ると、同じ抽象名詞においても語の持つ抽象度によって、「小さい」の修飾率が異なるように思われる。抽象度の影響を考えるために、抽象度を下記のように定めて進めることにしたい。なお、本稿における名詞の抽象度は、「小さい」「小さな」の相違を探るためのものである。有情・無情による基準等々も考えられるが、取りあえず、分かりやすい基準によって進めることにしたい。

【抽象度基準】

- ① 基準A：目視も、聞くこともできない。あるいはそう思われる。
- ② 基準B：聞くことができる。あるいはそう思われる。
- ③ 基準C1：目視できる。あるいは目視できると思われる。
- ④ 基準C2：C1+長さがある。広がり（面）がある。あるいはそう思われる。
体積、重さがない。あるいはそう思われる。
- ⑤ 基準C3：C2+かさ（体積）がある。あるいはそう思われる。
重さがない。あるいはそう思われる。
- ⑥ 基準C4：C3+重さがある。あるいはそう思われる。（人）

【抽象度（具象度）】

- (1) 抽象度A1：基準Aの対象（本稿ではこれを抽象名詞に分類している）

- (2) 抽象度 A2：基準 B の対象（本稿ではこれを抽象名詞に分類している）
- (3) 抽象度 A3：基準 C1 対象（本稿ではこれを具象名詞に分類している）
- (4) 抽象度 A4：基準 C2 の対象（本稿ではこれを具象名詞に分類している）
- (5) 抽象度 A5：基準 C3 の対象（本稿ではこれを具象名詞に分類している）
- (6) 抽象度 A6：基準 C4 の対象（本稿ではこれを具象名詞に分類している）

抽象度によって、先に示した上位の語と下位の語を比較すると、同じ抽象名詞であっても上位の語は下位の語に比べ抽象度 2 の語（「音」、「悲鳴」、「声」）の割合が高く、下位の語には、抽象度 1 の語（「目標」、「変化」、「成功」、「親切」）が多いことを指摘できる。同じ抽象的な名詞であっても、その抽象度によって、微妙に「小さい」と「小さな」の出現率に影響を与えているものと思われる。ただ、「音」「悲鳴」「声」を具象名詞と同様に処理しているとも考えられ、更なる検討が必要である。

また、上位の語には、「企業」「集団」「国」「共同体」などのように組織（体）を表す名詞が多い。これらの語は、建物などがイメージされやすいため、「目標」「変化」「成功」「親切」等に比べ抽象度が低いと感じられるためと考えられる。

4 まとめ（結論）

残された課題も多いが、「BCCWJ 09_BK」に見られる名詞を修飾する「小さい／な」の用例によって明らかになったいくつかの点をまとめておきたい。

- (1) 被修飾名詞全体において「小さい」が占める割合は小さい。26.9%
- (2) しかし、総ての名詞において少ないのではなく、その割合が 80% を超える名詞もある。
- (3) 「小さい」の割合が圧倒的に高い（80% 以上の）名詞は、そのほとんどがいわゆる形式名詞と呼ばれるものである。
「場合」：100%、「順」：100%、「とき」：98.7%、「時」：96.3%、「ほう」：94.7%、「ころ」：91.8%、「頃」：89.7%、「方」：81.8%
- (4) 形式名詞でない名詞にも、「小さい」の割合の高いものが見られる。
「順」：1（100%）、「サイズ」：0.571（57.1%）、「単位」：0.571（57.1%）
- (5) 「小さい／な」＋形式名詞において、「小さい」が占める割合は圧倒的に高い。73.7%
- (6) 「小さい／な」＋具象名詞に見られる「小さい」の割合は小さい。12.8%
- (7) しかし、「小さい」の割合が高い名詞も見られる。
「子」：0.64、「人間」：0.60、「容器」：0.57、「人」：0.55、「商店」：0.50、「男」：0.43、「袋」：0.33、「動物」：0.33、「子供たち」：0.31、「子供」：0.30
- (8) これらの名詞（「子」「子供たち」「子供」、「人間」「人」「男」）には年齢を表す表現や連体修飾節用法の割合が大きい。
- (9) 「小さい／な」＋抽象名詞に見られる「小さい」の割合は小さい。12.3%
- (10) 連体修飾節用法率が高いものは、「小さい」の出現率も高い傾向が見られる。しかしその逆は真ではない。
- (11) 具象名詞と抽象名詞における「小さい」の出現率を見ると、ほとんど変わらず、「小さい」は具象名詞に係りやすく、「小さな」は抽象名詞に係りやすいという一般化できない。
- (12) しかし、抽象名詞内で、より抽象度の高い名詞とより抽象度の低い名詞を比較すると、わずかであるが、「小さい」が抽象度の高い名詞に係りにくい傾向が見られるようである。

おわりに

本稿によって、名詞を修飾する「小さい／な」の使い分けについて、これまでの指摘の問題点を示すと共に、使い分けの一端を明らかにすることができた。しかし、残された課題も多い。連体修飾節用法の調査・分析、抽象度による詳細な調査・分析、多義別による調査・分析、その他、上／下位概念、基本概念（代表概念）、指示性との関連、等々。総て今後の課題としたい。

謝 辞：「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の作成に関わった方々、「プログラミング言語 Ruby」の作成に関わった方々に対し敬意を表すると共に心底より感謝申し上げます。

【引用文献・引用辞書】

- (1) 森田良行（1989）『基礎日本語』角川書店
- (2) 飛田良文・浅田秀子（1991）『現代形容詞用法辞典』東京堂出版
- (3) 佐々木文彦（2002）『『大きな声』と『大きい声』』（『明海日本語』第7号 2002. 03）
- (4) 小学館（2002）『日本国語大辞典（第二版）』小学館
- (5) 北原保雄（2002）『明鏡国語辞典』大修館書店
- (6) 小学館（2006）『大辞泉 増補・新装版』

【用例採集資料】

- (1) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ（2009年度版）」（書籍データ）独立行政法人国立国語研究所研究開発部門言語資源グループ、105 MB